

経済・金融 フラッシュ

商業販売統計 10年10月

～小売業はエコカー補助金終了の反動減が響き前年比▲0.2%と10ヵ月ぶりに減少

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

1. 小売業はエコカー補助金終了に伴う反動減が響き前年比▲0.2%と10ヵ月ぶりに減少

11月29日に経済産業省から公表された10年10月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比▲0.2%の10兆7990億円と、10ヵ月ぶりに減少した。季節調整済前月比でも▲1.9%と、前月（同▲3.0%）に続いて減少した。

物価変動の影響を除いた実質値（当研究所試算値）では前年比▲1.2%と、17ヵ月ぶりの減少となった。生鮮商品が前年比11.4%の大幅上昇となったことなどにより、物価（財・電力・都市ガス・水道）がプラスに転じたことから名目の伸びが実質を上回った。

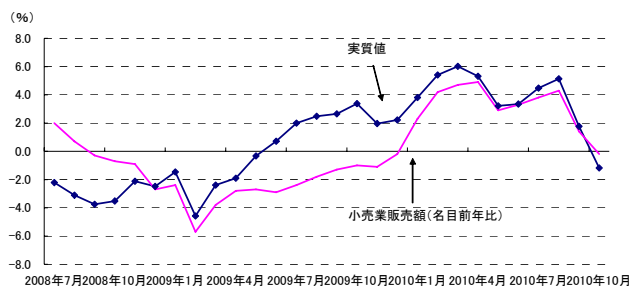
業種別では、織物・衣服・身の回り品小売業が前年比5.2%（9月：同▲2.0%）の高い伸びになったことに加え、エコポイント制度の付与ポイントが12月から半減されることを受けた駆け込み需要の発生によって、機械器具小売業が前年比17.6%（9月：同8.4%）と高い伸びとなった。一方、これまで消費回復の牽引役となっていた自動車小売業は、9月で終了したエコカー補助金の反動減の影響が響き、前年比▲24.1%（9月：同1.8%）と大幅に減少した。寄与度別では、機械器具小売業が1.0%押し上げたものの、自動車小売業が▲3.0%と、小売業販売額を大きく押し下げた。

小売業及びコンビニエンスストア販売額（増減率）

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	前月比	前年比	大型小売店				スーパー		前年比	前年比(既存店)
			前年比	前年比(既存店)	百貨店	スーパー				
09年8月	0.5	▲1.8	▲5.0	▲6.8	▲10.3	▲8.9	▲2.3	▲5.7	▲3.0	▲5.6
9月	0.6	▲1.3	▲4.2	▲5.6	▲9.5	▲7.8	▲1.1	▲4.3	▲2.4	▲5.7
10月	▲0.6	▲1.0	▲6.4	▲7.2	▲12.3	▲10.6	▲2.7	▲5.2	▲2.9	▲5.6
11月	0.0	▲1.1	▲9.0	▲9.7	▲13.5	▲11.8	▲6.1	▲8.3	▲3.6	▲6.4
12月	▲0.3	▲0.2	▲4.2	▲4.6	▲7.0	▲5.1	▲2.3	▲4.3	▲2.8	▲5.7
10年1月	2.0	2.3	▲5.1	▲5.7	▲7.4	▲5.7	▲3.7	▲5.7	▲2.5	▲5.5
2月	0.9	4.2	▲3.4	▲4.0	▲7.4	▲5.3	▲1.2	▲3.3	▲1.8	▲4.9
3月	0.8	4.7	▲4.1	▲4.9	▲5.6	▲3.6	▲3.2	▲5.6	▲2.4	▲5.1
4月	0.5	4.9	▲3.1	▲3.7	▲6.0	▲3.7	▲1.5	▲3.7	▲1.2	▲3.9
5月	▲2.0	2.9	▲3.2	▲3.9	▲4.1	▲2.1	▲2.8	▲4.8	▲0.8	▲3.7
6月	0.4	3.3	▲2.4	▲3.1	▲7.4	▲5.7	0.4	▲1.6	1.2	▲1.4
7月	0.7	3.8	▲1.0	▲1.3	▲3.2	▲1.4	0.5	▲1.2	2.9	0.3
8月	1.4	4.3	▲1.3	▲1.8	▲5.0	▲3.0	0.4	▲1.3	3.2	0.7
9月	▲2.8	1.4	▲1.1	▲1.7	▲6.4	▲5.0	1.7	0.0	15.1	12.2
10月	▲1.9	▲0.2	1.2	0.4	▲0.5	0.6	2.2	0.3	▲3.3	▲6.0

(資料)経済産業省「商業販売統計」

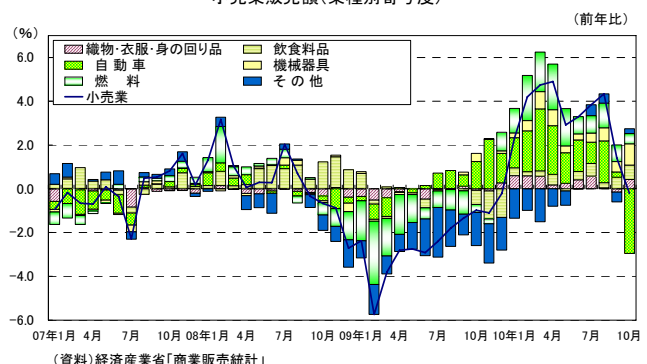
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化

小売業販売額(業種別寄与度)

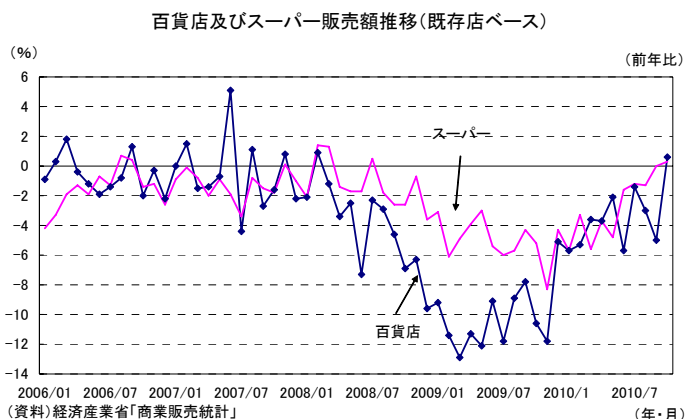


(資料)経済産業省「商業販売統計」

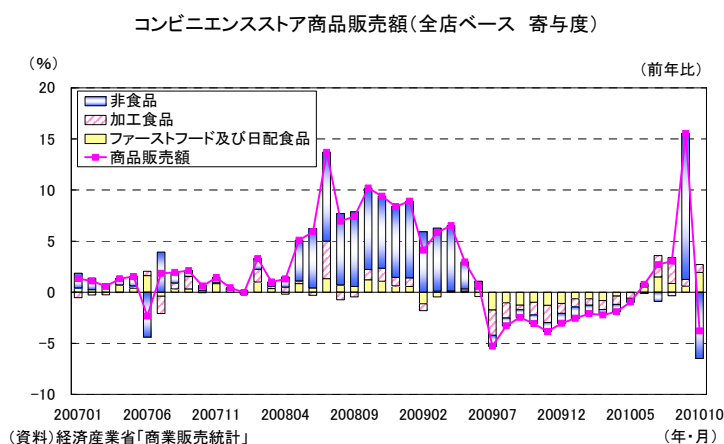
2. 百貨店販売額は前年比 0.6%と 2 年 8 ヶ月ぶりに増加

10 年 10 月の大型小売店の販売額（百貨店とスーパーの合計）は 1 兆 5803 億円、既存店ベースで前年比 0.4%となり 2008 年 3 月以来、2 年 7 ヶ月ぶりに増加に転じた。百貨店についても、前年比 0.6%と 2008 年 2 月以来、2 年 8 ヶ月ぶりに増加に転じた。

百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品が前年比 1.5%、（9 月：同▲10.4%）、婦人・子供服・洋品が前年比 0.4%（9 月：同▲8.3%）となるなど、販売額の 4 割強を占める衣料品全体で増加に転じた（9 月：前年比▲8.3%⇒10 月：同 0.5%）。衣料品が前年比で増加したのは 2007 年 8 月以来 3 年 2 ヶ月ぶりとなった。その他の商品では、家庭用電気機械器具が前年比 2.1%と 4 ヶ月ぶりに増加に転じたことに加え、家庭用品でも前年比 3.4%と増加した。



コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は 6515 億円、前年比▲3.3%（全店ベース）と減少した。10 月 1 日からのたばこ値上げに伴う駆け込み需要の反動減から、非食品（前年比▲19.2%、9 月：同 42.6%）が大幅減少となったことが販売額の減少に大きく寄与している。その他の商品では、加工食品（前年比 2.5%、9 月：同 2.2%）、ファーストフード及び日配食品（前年比 5.5%、9 月：同 1.7%）ともに前月から増加幅が拡大した。



10 月の小売業販売は、エコカー補助金終了、たばこ値上げ直前の駆け込み需要の反動減による影響から弱い動きとなったものの、百貨店販売額が 2 年 8 ヶ月ぶりに増加となるなど、明るい材料も出始めている。10-12 月の個人消費については、賃金の増加など所得環境の改善が下支え要因となることが予想されることに加え、12 月からのエコポイント付与半減を受けて、11 月末にかけて薄型テレビなどで駆け込み需要が見られるものの、自動車の駆け込み需要の反動減による影響が大きく、7-9 月期と比べて弱い動きとなることが懸念される。